

## 2021年度 感染症対策セミナー

### 『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について学ぶ』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部  
学術委員会

#### 「COVID-19 患者に対する放射線検査の実際」

りんくう総合医療センター 近藤 幹大

2019年12月、コロナウイルス感染患者が確認され、日本国内で2020年1月16日に初めて感染患者が報告された。時間の経過と共にCOVID-19に対する多くの報告が成され、COVID-19は未知のウイルスではなく、感染対策をすれば感染を防ぐことができるウイルスであるとのエビデンスが認知された。

感染経路は主に飛沫感染と考えられ、ウイルスを含む飛沫などによって汚染された環境表面からの接触感染もあると考えられ、鼻や口等の粘膜からウイルスが侵入し感染する。その他にエアロゾル感染も指摘されており、少なくともエアロゾルを発生する処置には、空気感染予防策が推奨されている。2020年12月にはCOVID-19の変異株も確認され、まだまだCOVID-19対策が続く事が予想される。

今回、当院のCOVID-19患者に対する対応を紹介し、本報告が今後の感染対策の一助となることを期待する。

#### 「感染対策のニューノーマル」

箕面市立病院 四宮 聡

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行や感染対策に関する情報が毎日のように発信され、十二分に情報を得ることができる。その一方で、クラスターと呼ばれる集団発生事例が散見され、ウイルスの侵入がいつ起こるかストレスを感じているのは私だけではないと思われる。また、COVID-19以外にも、SARS、新型インフルエンザなど近年いくつかの感染症を経験した記憶はまだ新しく、今後も新たな感染症は定期的に到来すると考えるのが妥当である。

感染対策に目を向けると、医療従事者は感染対策について習熟し、実践できているものとみなされているが、現実はそのほど容易ではない。COVID-19の変異株が国内でも広がりを見せつつある

中、感染対策は COVID-19 だけを想定した対応に終始しては落とし穴が待っていると考える。講演では、感染対策の基本に加えてどのような知識・技術を習得しておくべきかについて最近の知見も踏まえて紹介する。

## 「当院での COVID-19 対応と画像所見」

和歌山県立医科大学附属病院 柴田 尚明

当院は、大学病院かつ高度救命救急センターを擁するため、2020 年の COVID-19 流行当初から、和歌山県の方針として、最重症の COVID-19 患者のみを ICU にて受け入れることとなった。しかし、2021 年 3 月から感染者数が増加してきたため、4 月中旬から当院でも COVID-19 患者用の一般病床を設けた。このような背景のため、これまで当院で入院治療を行った COVID-19 患者は非常に少数であるが、この 1 年の経験を基に当院での COVID-19 対応とその画像所見について述べる。

COVID-19 確定診断患者および COVID-19 疑似症患者は、閉鎖できる個室の病室または診察室にて、个人防护具（PPE）を使用のもと診療を行う。CT 検査を行う際は、通路を人払いした上で CT 室へ出棟し、放射線技師は PPE を使用のうえ検査を行う。検査終了後の CT 室は、CT 台などをルビスタ<sup>®</sup>で清拭し、15 分間換気を行っている。なお、放射線技師は、患者を CT 台に移乗させた後は、手袋を装着し直し、コンソール操作を行っている。また、胸部単純写真は、ポータブル写真で代用していることが多い。COVID-19 確定診断患者および COVID-19 疑似症患者が入院する際は、通路を人払いし、病室まで搬送している。

当院で治療を行った COVID-19 患者の肺の画像所見は、これまでの多くの文献同様、病初期は両肺胸膜直下に、すりガラス陰影（GGO）が散見され、経時的に GGO が拡大進行し、一部浸潤影が加わってくるという経過である。なお、当院では最重症の患者しか受け入れていないため、肺炎像が経時的にきれいに消失するという症例の経験はない。

## 「新型コロナウイルス感染症を 3 原則（感染源対策・感染経路対策・感受性宿主対策）から考える」

大阪市立大学大学院医学研究科 加瀬 哲男

新型コロナウイルス感染症の対策も 3 原則に則って行われる。新型コロナウイルスの宿主は人であるので、感染源対策は人に対して行われることになる。新型コロナウイルス感染が確定すれば、感染者は病院、医療用ホテル、自宅などで隔離される。隔離期間の重要なことは感染源になりうる期間であるが、現状では正確に測定されているわけではない。感染経路には、飛沫感染、エアロゾル感染（飛沫よりも粒形が小さい水滴）、接触感染がある。重要な感染経路は飛沫感染、エアロゾル感

染と考えられており，市中における人-物の表面-人感染（fomite infection）は，非常に稀であるとする意見も多い．感受性宿主対策はワクチン開発が進み，多くの人に期待されているが，全国民が免疫を持つようになるには，まだ時間が必要である．多くの急性感染症は，顕性感染者に焦点を当てることによって対策されてきたが，この感染症では無症状（不顕性）感染者にも対策を講じなければならないところに大きな問題がある．